

## 2019 年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本小児アレルギー学会

正式名称

小児アレルギー スキルアップ コース

医学教育事業の概要

- ・小児アレルギースキルアップコース：Pediatric Allergy Skill Up Course,PASCO
- ・地方における小児アレルギースキルアップコース：“出前”PASCO
- ・Web 版小児アレルギースキルアップコース

医学教育事業の対象者

主な医療関係者： 医師  歯科医師  薬剤師  看護師  
 その他（ご記載ください。）

対象となる医療関係者の想定人数：総合セミナー 250 人、地方セミナー 100 人

医学教育事業の必要性 / 目的

喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患は、通常の小児科診療でしばしば遭遇する疾患であるが、その診療にあたっては、薬物治療だけでなく患者の生活全体に目を向けた指導が必要となる。本事業で実施する小児アレルギースキルアップコース（PASCO）は、卒後 10 年までの若手小児科医（初学者）を対象としてハンズオンを中心としたインターラクティブな少人数教育を行うことで、参加者が楽しみながら小児アレルギー疾患の診療レベルを高めることを目的としている。また、アレルギー専門医が少ない地域において「出前 PASCO」を開催することで、その地域小児アレルギー診療レベルの均てん化を図る。

医学教育事業の計画・方法等

### 1. 小児アレルギースキルアップコース（PASCO）

卒後 10 年までの若手小児科医対象として、2 日間のセミナーを年 1 回、東京などの大都市で開催する。アレルギー概論、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーの 4 つのテーマについて、ハンズオンを中心としたインターラクティブな少人数教育を行う。さらに、参加者の教育だけでなく、ファシリテーターやチューター役を担当するスタッフの育成もめざす（階層的教育プログラム）。

### 2. 地方における「出前 PASCO」

地域における小児アレルギー診療レベルの向上を目指して、スタッフを地方に派遣し、現地の小児科医と協力しながら、週末半日のセミナーを年 2 回程度開催する。対象は若手小児科医に限定せず、地域で活躍する小児科医も含める。内容は、患者数が急増している食物アレルギーを中心とし、ミニレクチャーとハンズオンで構成する。参加者を経口食物負荷試験の経験度によってグループ分けして、レベルに応じた教育内容とする。さらに、計画立案時から地域の小児科医と密接に連絡をとり、その地域でのニーズに合わせた内容としつつ、この作業を通して地域の指導的小児科医の育成も図る。

### 3. Web 版小児アレルギースキルアップコース

既に録画された教材の配信を続け、より多くの人の目に止まるような広報活動に努める。新しいウェブ教材も作成し、視聴者の評価とフィードバックも可能なシステムとする。

医学教育事業の効果の測定方法

PASCO では、Kirkpatric の 4 段階の評価概念に基づき、参加者の反応（満足度）、学習（知識スキル）、行動（実際の行動変容）について、開催前後さらに 6 ヶ月後に web 調査を実施する。出前 PASCO では同様の方法で調査を行うが、特に目的とする「地域における食物アレルギーの診療レベルの向上」についての実態調査と効果判定を行う。Web 版では、視聴の登録者や終了者の人数を把握しつつ、個別視聴者の教育効果の評価方法について検討する。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

全体 PASCO や出前 PASCO の開催報告を日本小児アレルギー学会の学会誌に掲載する。また、調査結果に基づく本事業の成果について、学会の学術大会で報告したり、学会誌に原著論文として投稿する。さらに、小児科ならびにアレルギー領域の他学会においても、本事業の有益性について広く発表する予定である。